

さて、今年も師走、12月を迎えました。

これからの季節は、交通事故が最も増えてくる時期です。

視界が利かなくなるような暴風雪、滑りやすい路面状況、危険を予測・察知して避けていく運転がこれまで以上に求められます。

国道5号線、国道227号線、国道278号線、それぞれに特徴の多い道路です。

高低差、カーブの多い道路走行には神経を使い、融けては固まるブラックアイスバーン、山間の日陰、橋の上、トンネル内部では道路が氷結している場合もあり、油断ができません。

そうした状況の中、慣れた道でも、「スリップする冬道特有の危険」

⇒ 高低差のある道路は、確実に滑りやすい

⇒ 橋の上やトンネル内、山間で日陰となっている場所はアイスバーンで滑りやすい

⇒ 特に市街地では、道路の雪山の陰から人が出てくる可能性があり、急制動が効かない

ということを予測・察知して、

⇒ 実勢速度を下げる運転

⇒ 十分に車間距離を確保する運転

⇒ 急発進・急制動・急ハンドルなどを避ける運転

⇒ 交差点での左右安全確認はいつも以上にしっかりと行う慎重な運転

に十分注意をしていただき、危険を避ける安全運転を是非とも励行して下さい。

そして12月は、忘年会シーズンを迎えて飲酒の機会が増えます。

飲酒運転は、悪質、危険な犯罪です。

飲酒は安全運転に必要な情報処理能力、注意力、判断能力を低下させ、運転に大きな影響を及ぼし、重大事故に繋がる危険を高めます。

一人一人が「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」ことを強く意識して、道南から飲酒運転をなくしていきましょう。



また、二日酔いでの運転も「飲酒運転」になります。アルコールチェッカーなどを使用して身体にアルコールが残っていないことを確認してください。



そして、飲酒運転は、運転者だけではなく、運転者以外の人にも重い処罰があります。

車を運転する恐れのある人にお酒を提供したり、お酒を飲んでいる人に車を提供したり、飲酒運転の車に同乗した場合は、飲酒運転と同様に処罰の対象になります。

飲酒運転防止のため、仲間と車で飲食店に行く場合、予めお酒を飲まない人（ハンドルキーパー）を決め、その人が仲間を自宅まで送り届けることも大切です。

お酒を提供する飲食店では「来店客が車で来ていないか」、車で来ている場合は「ハンドルキーパーは誰なのか」を確認して、飲酒運転を防ぎましょう。



北海道警察では、悪質な飲酒運転を根絶するため、「飲酒運転ゼロボックス」によるタイムリーな飲酒運転の情報や飲酒運転根絶に向けたアイデアを受け付けています。飲酒運転をなくしていくため、是非、皆様のご協力をお願いします。



飲酒運転ゼロボックスQRコード

令和7年12月1日

函館方面函館中央警察署長 佐藤 伸治